小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人友の会	代表者	大嶌　泰雅
事業所名	小規模多機能ホーム長根の森	管理者	水野　雄大

法人・事業所の特徴	八戸市の中心街である長根公園の向かいにあり、自然が豊かであるため四季を感じながら過ごす事が出来ます。個々の意向に合わせて通いサービス、訪問サービス、宿泊サービスを柔軟に組み合わせ利用する事で在宅での生活が継続出来るよう支援しています。また、町内会への加入や地域行事への参加も積極的に行っています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民･地域団体	利用者	利用者家族	高齢者支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	１（文書）人	０人	４（文書）人	０人	１（文書）人	１（文書）人	０人	４（文書）人	０人	１１人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	①　新型コロナウィルスにより、自己評価できていない部分があった為、コロナ禍でも自己評価できやすいような事前説明を行う。	①　自己評価前には事前に勉強会を実施し、職員全員の認識の周知を図っている。	･計画を立てても思うように取り組めなかったりと大変ですが柔軟に対応できていると思います。	①　今後も自己評価に早めに取り組めるように、事前の勉強会の実施と環境作りを行う。
B．事業所のしつらえ・環境	①　ケアプランの見直し時、ご利用者を対象に、ケア会議時にサービス内容について（アプローチ方法やケアの仕方など）を詳しく話し合い、職員で共有し統一した対応ができるようにしていく。 ②　高齢者世帯や日中独居世帯の状態を把握し、地域資源の活用に結び付けていく。	①　総合的にみると出来ていたと思うが、担当ご利用者以外の事だとできていないように感じる。また、少し期間が開くと忘れてしまうこともあった。 ②　訪問等で状態を確認した内容を申し送り、他職員に情報共有した後、利用者のニーズに即した地域資源を支援へと結び付けていた。	･関わり方やケアの方法で苦慮することは多いと思いますが密な情報共有で利用者様に安心して生活してもらえるように頑張ってほしいです。 ・報告、連絡、相談の徹底でよくできていると思います。 ･施設利用者が車のラジエーターによるやけどに注意願います。	①　担当職員がご利用者の情報収集や状況を把握し、ケアの内容をまとめ会議等で話し合い意見交換する事で、次の対応につなげていく。 ②　訪問で対応に苦慮し支援が出来ない状況がある一方で、支援者が代わると支援が出来た内容が申し送りされてない事があるので、支援が出来た事柄を忘れず入力し情報共有できるようにする。
C．事業所と地域のかかわり	①　新型コロナウィルスの感染状況を見ながら、掲示物の内容を話し合い、地域の方と交流を図れる物やボランティア募集など工夫をしていく。また、公民館で慰問活動をしている団体に依頼をする。	①　新型コロナウィルスの感染拡大の為、ボランティアや慰問活動など地域の方と交流する機会はなかったが、運営推進会議の中で、地域の方の話や意見を聞くことが出来た。	･どの事業も外部との接触が少なくなっており、地域との交流などは難しいと思います。そのような中、事業所職員を担当者会議に参加させサービス機関と関わる機会があるのは職員にとっていい刺激になると思います。 ･毎回写真を多用した新聞の配布を頂き施設の運営状況が分かりやすいです。これからも情報提供	①　地域貢献・広報委員会を中心に掲示板の内容を定期的に検討し、地域の方に小規模多機能居宅介護や施設の様子を知って頂く。 ②　サービス担当者会議に、ケアマネだけではなく事業所職員も参加し、他のサービス機関との連携・協働を図っていく。

			をお願いいたします。	
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	① どういった地域資源があるのか、またその活用方法について勉強会を行う。	① 地域資源についての勉強会ができていなかった。その為、現在活用している資源は理解しているが、それ以外にどのような地域資源があるのか理解できていなかった。	・民生委員や町内会の他に市内でもインフォーマルサービスが増えてきています。すべてを把握しているわけではありませんが、必要時は情報提供できると思います。	① 地域でみていく為に、民生委員の役割や社会資源の内容、活用するまでの流れについて勉強会を通じて理解するとともに、事業所の活動について知って頂けように、地域の方々との話し合いの場を設ける。
E．運営推進会議を活かした取組み	① インシデント・アクシデントの報告書が完成したら、提出用と回覧用を用意し、すぐに他職員が回覧できるようにする。すぐに職員間での情報共有をし、再発防止に努めていく。 ② プライバシーや虐待について、日常のケアの中で職員同士確認しあえる環境づくりと、職員会議での事例検討とマニュアル確認を行う。	① インシデントやアクシデントについては速やかに報告書を作成し、全職員が周知できる環境を整えることが出来たため、すぐに改善策を実行でき、利用者が安全に過ごしていただけるよう対応できた。 ② 事例検討まではいかなかったが日々のケアや職員会議の中で、職員同士対応方法などの確認を行う事ができていた。	・個人情報の制約がありますが町内会会員の動向は適にご報告いただければ施設利用時以外での見守り等ももっと積極的に地域として支援できるのではないかと考えています。 ・できれば、毎回ではなくとも参集した会議を開いていただき、情報共有ができればと思います。	① 在宅での介護や認知症、虐待などについて、事業所でのケースや事例をもとに、それぞれの意見を頂く。
F．事業所の防災・災害対策	① 災害時や感染症などがあった際でも、安定した運営ができるような体制作りを行う。	① 事業継続計画を法人全体で取り組み、災害時や感染症時の体制作りに取り組んでいる。	・実施訓練等でご協力できることがあれば声を掛けていただきたいです。 ・災害時対策も本当に難しい問題ですが地域との連携を一番必要としている部分でもあります。町内会としても防災、災害時対応に皆様のご協力が不可欠と思いますので今後ともよろしくお願いいたします。	① 事業継続計画の体制づくりが出来次第、職員全員へ周知を図っていく。 ② 地域の一員として防災や災害時の連携が図れるよう、協力に努めていく。